

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 22 年 7 月 2 日)

### 公冶長第五

22 子曰く、伯夷・叔斉は旧悪を念わず。怨是を用て希なり。

孔子が言うには、伯夷・叔斉は、悪は憎むけれどもその人物は憎まなかった。悪いことをした人間がその行いを改めた時には、さらっと忘れてしまうので、後々まで恨みが残らないし、周りの人から恨まれるようなこともなかった。

伯夷・叔斉は、清廉潔白な兄弟として色々なところに名前が残っています。故郷の孤竹という国でお互いが王位を譲り合って、二人とも位を継がずに去って、殷の紂王に仕えました。けれども紂王の悪政にあきれてすぐに辞めて、周の武王に仕えました。その後、武王が紂王を攻めようとしたので、諫言して止めさせようとしたけれども出来なかった。その後、周が天下を取ったので、そのまま武王に仕えるのを恥じて、首陽山にこもって蕨をとって命を繋いだけれども餓死をしてしまったというエピソードが残っています。

悪は憎むがその人物は憎まないという点は、現代で考えると非常に難しいと思います。「坊主憎けりゃ、袈裟まで憎い」というのが今の世の中では普通です。政治家を見ても、悪いことばかりしている人達が多い。しかも、悪さをしていることを一所懸命否定していますので、悪を憎んで人を憎まずということは難しいと思います。

菅さんが、自民党案に倣って消費税の 10%アップを提案しました。その後すぐに、低所得者については還付すると言いました。しかし対象となる世帯の年収の上限も 300 万、350 万、400 万と変わっています。400 万以下の年収ならば、46%の世帯が対象になります。半数近くの世帯が低所得者と言われると、ちょっと苦しいと思います。「発言は憎むがその人物は憎まない」と言い換えてみた時に、菅さんの言葉を憎む憎まない以前に発言がコロコロ変わってしまうので、今の時代は難しいと感じました。

23 子曰く、孰か微生高を直なりと謂う。或ひと醢を乞う。諸を其の鄰に乞いて之に与う。

孔子が言うには、微生高は正直な人間だと言うけれども本当にそうだろうか。或る人が酢がないので微生高に貰い行ったところ、自分のところに無かったので、隣の家から貰っ

て渡した。

これも結構有名な話です。あるものはある、無いものは無いと正直に答えるのが正直者であって、酔が無いにもかかわらず隣から貰ってきて、元からあるような顔をして与えるのは直とは言わない。売名行為そのものではないかと、孔子が微生高を批評しています。

直（正直者）とは、ある時はある・無い時は無い、知っているものは知っている・知らないものは知らないと言える。なかなかこれは難しいことです。知らないのに知ったかぶりをして、知っていると言ってしまうがちです。一知半解と言いますが、これは氣を付けた方がよらしい。現代で見ますと、直と言わない人だらけだと感じます。

お酢を貰いに行くという部分は、かつての日本も隣近所でお醤油を貸し借りしてましたから、そういう下町の美風を感じますが、それも昔の話となってしまったと感じます。

24 しいわ こうげん れいしよく すうきょう さきゅうめい これ は きゅう またこれ は うらみ  
子曰く、巧言・令色・足恭なるは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。怨  
かく そ ひと とも さきゅうめい これ は きゅう またこれ は  
を匿して其の人を友とするは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。

左丘明は昔の賢人で、一説によると春秋左氏伝を書いた人だと言われています。丘は、孔子のことです。

孔子が言うには、口先の上手な者、ニコニコしているけれども眼が怖い者、分を過ぎて恭しくする者。左丘明はこういう人たちは恥ずかしいと言った。私もまた、こういう人は恥ずかしいと思う。

腹の中で「このバカ野郎」と思いながら友達扱いをする。こういうことは恥ずかしいと左丘明が言っていたけれど、私もまた、そういう人は恥ずかしいし、友達にはしなくないと思う。

今の時代、石を投げれば巧言・令色・足恭なる人物に当たる時代です。繁華街で探すと、軒並みゴロゴロしていると思います。国会議事堂で巧言・令色・足恭なる人物を探すと、至る所そういう人ばかりではないかと思えます。

本日の解説は以上です。